

田中重人

祈り

朝ただ目覚めることさえ つらく厳しいとき

あなたはじつと身を横たえたまま 起きることを拒むだろう

陽が 西に傾きはじめて頃 あなたはようやく

あなたを包んでいた毛布から抜け出して

まだ暮れようとしないうちを 呆然と眺めやり

いつそ消えてしまえばと 打ちひしがれるだろう

もう涙さえ流れない もう話したい言葉さえ見つからない

思うようにならない 我が身をたずさえて

こんな重荷は もういらないと

日没とともに あなたの悲嘆は耐えがたくなり

それでも それでもやはり

あなたの沈黙のもとにも 救いの夜は訪れる

もちろんなにひとつ変わりはない あなたの孤独はそのままに
いつ終わるともない疲労と 何度も襲いくる抵抗しがたい苦痛

しかし あなたのありのまま

苦しみのただなかに身を潜めて 夜の沈黙に耳を傾けてほしい

なにも聞こえない声がある

なぜならそれは 語り得ない言葉だから

あなたがいま 経験していることは

語り得ない言葉を秘めた夜の 親しい友になること

あなたはすでに夜に認められた かけがえのない存在だから

もしあなたに 扉をひらく力が残っているなら

戸外へ歩みでて そっと夜空を 眺めてほしい

そこにはあなたと同じ

黙して語らない 無数の星の姿があるから